

## 体腔液セルブロック標本の有用性についての臨床病理学的検討

### 研究の目的

胸水・腹水・心嚢水などの体腔液の検査では、良性か悪性か、また悪性であった場合、どこの臓器由来か(原発巣といいます)で薬の選択などの治療方針が異なります。しかしながら、通常行われている細胞診検査では、良悪の判断が難しいことや、形態から悪性であることはわかっても原発巣を詳細に検討することは難しいという現状があります。そのため、当院ではいち早くセルブロック法を導入し、これらの体腔液標本で免疫組織化学を行って、良悪の判定や原発巣の推定に役立ててきました。今回、これらの結果を用い、当院における体腔液貯留症例の臨床病理学的特徴を明らかにし、セルブロックの有用性を確認することを目的として研究を行います。

### 研究の方法

#### ・対象となる患者さんについて

2012年1月1日から2023年12月31日までに、当院で行われた胸水・腹水・心嚢水などの体腔液の病理検査を受けた患者さん

#### ・方法について

上記対象となる方の年齢、性別、良悪、悪性であった場合は原発巣・組織型、検査のために用いた免疫組織化学などの情報を診療録並びに病理診断報告書より収集します。

新たなご協力・ご負担はございません。

### 個人情報保護上の配慮

個人情報を取り扱う際には、氏名や住所、ID等、個人を特有的できる記述を削除し、研究用の番号をつけて取り扱います。研究結果を公表する際にも、患者さんを特定できる情報を含まないようにいたします。

### 研究予定期間

倫理審査委員会承認日から2024年12月31日まで

### 問い合わせ先

当研究への登録を希望されない場合は、下記までご連絡ください。なお、申し出がなかった場合は、参加をご了承いただいたものとさせていただきます。不参加の場合でも不利益はございません。

この研究計画は当院倫理審査委員会で承認されております。

京都第一赤十字病院 病理診断科 樋野陽子

電話：075-561-1121（代表）